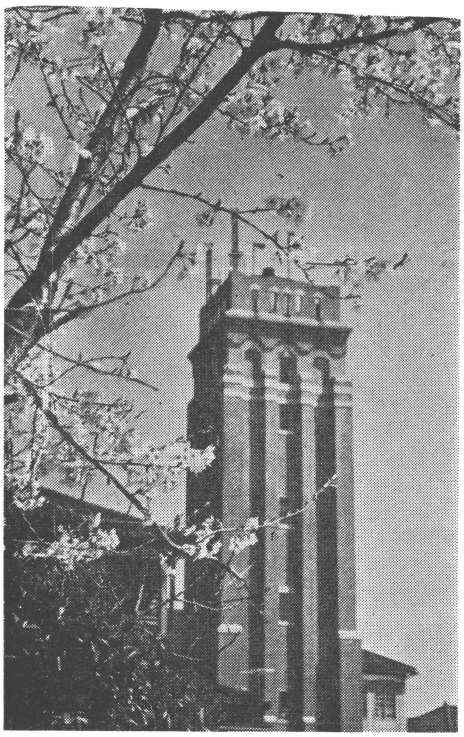
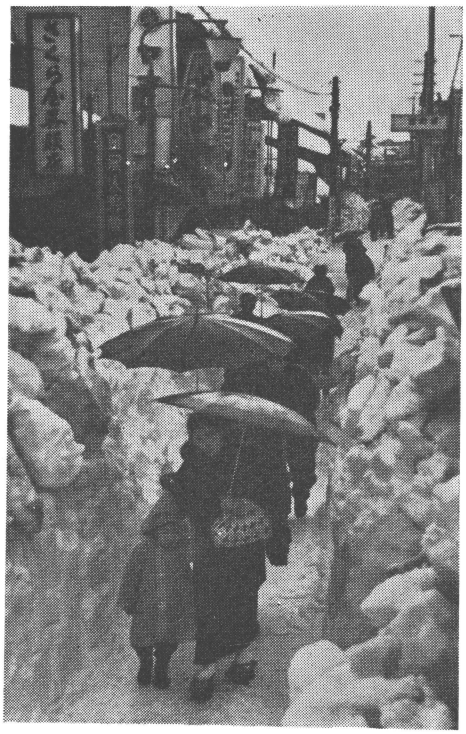
地方だより

金沢地方気象台



370年余親しまれて来た風力塔，間もなく取りこわされます（宮一郎撮影）



雪がつみ上げられた商店街（朝日新聞撮影）

—やあしばらく！　ひどい雪だったらしいね．

「馴れてしまえばそれほどでもないがね．しかし今度は一寸こたえたな．年末から年始にかけての大雪で，交通機関は止まる，物価は上る，それに通勤だって雪道をテクるんだから疲れてね．又家に帰れば帰ったで，屋根の雪おろしや道路の除雪があるんだ」．

—毎年々々そんなじゃやりきれんだろう？

「今冬は特別さ．過去75年の記録では大雪の7位だそうな」．

—その雪だが，予報はうまくいったの？

「うん．適中率95%，いやもっといいかな．『明日はくもり時々雪でしよう』一本でも殆んどはずれないくらいだから，天気予報そのものは簡単かも知れんが，量的予報が強く要求されるんだ．ところがこれも百発百中でね，気象台の評判は最近とみに上がったよ」．

—それはよかったね．でも他の季節はどうだい．

「春ならばフェーン，夏の異常な暑さ，晩秋のしぐれなどが顕著なものかな．とくに11月から2月まで，3ケ月に100日の降水日数があるんでね．『弁当忘れても傘忘れるな』とはよく言ったものだよ．一方，台風だが，これはまともに来ても大したことはないね．西日本や東海道を荒したあとの二番煎じだからね．注意報，警報が空振りに終ることがよくあるし，又市民の気象災害に対する関心も案外うすいようだよ」．

—府県予報区としての仕事の他に特殊なものとしては？

「先の雪の対国鉄協力，沿岸漁業無線局への協力，それに37年度から，近くの小松空港に分室が置かれるらしい．他に，今年中に庁舎が新築されるから，何かにつけて忙しくなるだろうね」．

—ところで金沢っていう街はどうだい．

「人口は30万足らず．加賀百万石で，戦災を受けていないから昔のものが温存され，何か古風な感じがするよ．産業も近代的なものは少く，中小企業による家内工業で美術工芸品の生産が主なものじやないか．例えば加賀友禅，陶器，漆器，製箔など，それに和菓子はよく知られているようだ．しかし百万石の気風がいまだに抜け切らず，百万石祭りで昔の夢を追っているよ．美人が多くておしとやかだし，近くには大きな加賀温泉郷を控えているんでね．一度遊びに来ればこの北陸独特のふん囲気が忘れ難く，この次はおしのびでということになるらしいよ．〝まあ，あんたも一ぺん来てみまっしいね！〟

大墨邦夫　記